

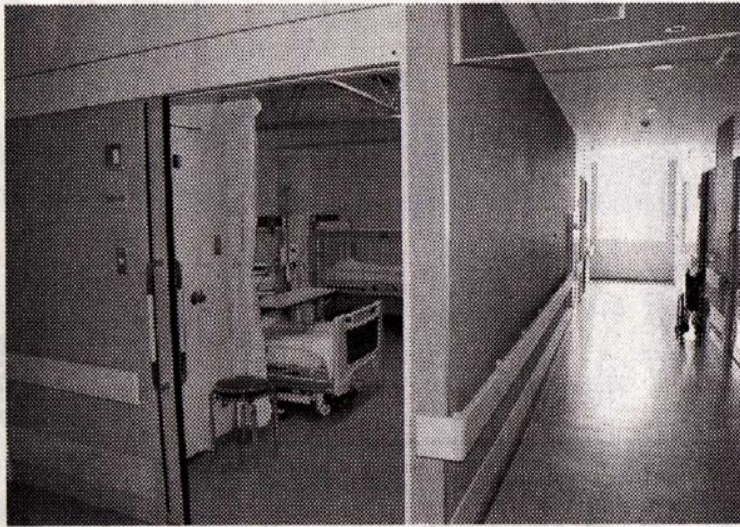
製鉄記念室蘭病院

新生児室広さ2倍に

小児科病棟の増築終了

製鉄記念室蘭病院（室蘭市知利別町、松木高雪院長）の小児科病棟の増築工事が、このほど終了した。新生児室は従来の2倍の広さとなったほか、感染症対策の一環として病室が増加するなど、小児科の体制強化が着実に進められている。

同院では2011年（平成23年）4月から、小児科医師の増員に伴い、ハイリスク分娩に伴う対応や小児救急の



として、昨年10月に着手した。

増築は今年3月に終了し、増築棟は既に稼働している。新生児室は従来比で約2倍の広さとなり、小児感染症患者への対応として病室は4室増えた。これにより、「4人部屋を1人で利用する」従来の形から、「2人部屋を個室で対応する」

増築工事が終わり、既に稼働している製鉄記念室蘭病院の小児科病棟

とした。小児ICU（集中治療室）や産科予備室も充実させたという。

同院では、11年度からの小児科体制の強化に合わせて、小児用の生体情報モニターや超音波画像診断装置などの医療機器も導入済み。今回の増築終了で、体制強化に伴う環境整備も一段落。ハード、ソフト両面から地域の小児診療体制の充実を図っている。

（松岡秀宜）